

2003.9.2

山本 眞一(筑波大学大学研究センター)

syamamot@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

大学教育の役割が変わりつつある。明治以来、我が国の大学は、欧米の進んだ学問研究の導入と国家社会に必要な人材養成が大きな任務であった。それは国民の側からは、立身出世の手段と見なされた。やがてその実質が形式に転じる中で、戦前すでに旧制中学や旧制高校をめぐる受験地獄の実態があったことを忘れてはならない。この基本的性格は、戦後教育の中でも根強く残り、大学教育に対する「学歴信仰」の形で、ごく最近まで我が国の大きな教育問題で在りつづけた。つまり、ここでは大学というものは、教育を受けることよりも入ることが目的であり、それは卒業後に大企業などに就職(あるいは就社)することの手段でありがちであった。

そこでは、大学は入口(入試)と出口(就職)が大切であって、その中で何が教えられているかについては、世間は大きな関心を示してこなかった。もちろん理系と文系とでは事情は違うが、全般的に見れば、大学は入試という入口をしっかりと管理しておれば、教育内容が世の中のニーズに合っていないなど多少の問題があったとしても、十分に社会的責任を果たすことができたのであった。偏差値による大学の序列は、教育界においては強い批判を浴びているが、これこそ大学やそれを利用する学生が、世の中の現状に過度に適応した結果である。つまり、入試の難易(偏差値)は、一時期まで学生の品質保障の意味合いを持っていたのである。

しかし、世界の冷戦構造が崩れ、我が国のバブル経済が終末を迎えるようになった1990年代以降、情報技術の発達や経済のグローバル化の進展の中で、産業・雇用構造は大きく変化し、それが大学教育の役割にも大きな影響を与えるようになった。つまり大学というところは、ただ単に有名校に入ればよいというところではなく、何を学び、どのような知識・技術を身に付けたのか、ということが強く問われる場になってきたのである。そのきざしはすでに各所に現れている。この原稿の読者の多くは戦後の高度経済成長期であった頃、高校教育や大学教育を受けられたのではないかと思うが、その頃特に決まった技術・能力を身につけないままに、終身雇用を期待して漫然と有名大学から大企業に就職した若者たちの現在の姿を見て欲しい。我々は、もはやこれまでのような価値基準では将来の夢を追うことはできない。そして、これからの夢は新しい生き方の中に見いださなければならないことが実感できるのではないかと思う。また、今の高校生がこれから進学を考えている大学も、従来通りのパターンで存在し成長を続けることが困難になりつつあるのである。

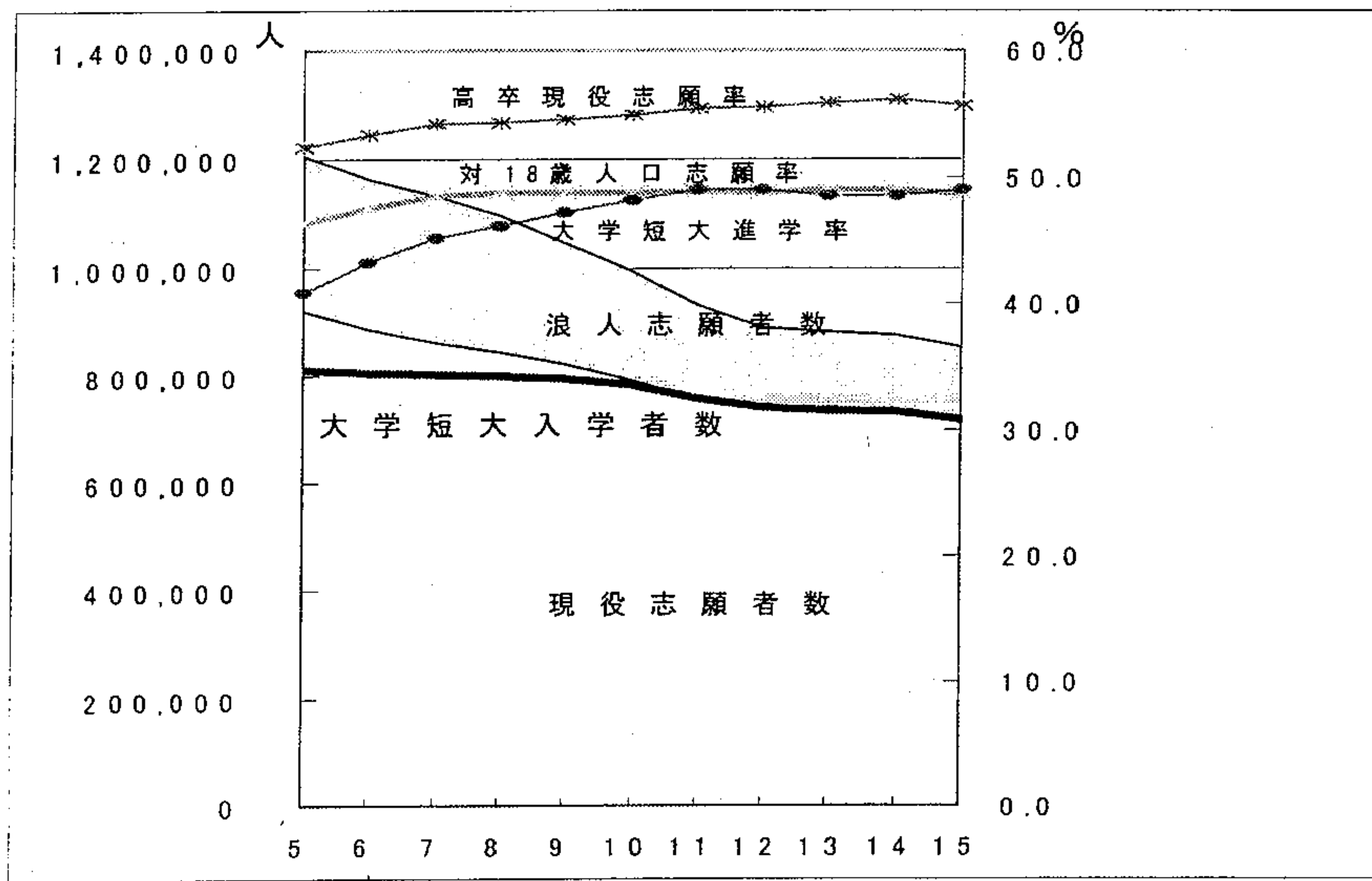
(山本眞一「これからの大学のあり方」月刊高校教育、2000年9月号より)

図表1 大学をめぐる諸環境の推移

	拡大期 (1960~75)	計画期 (1975~90)	多様化・個性化期 (1990~現在)	大競争期 (現在~)
大学進学率	上昇	安定	上昇	安定
入学志願者	拡大	安定→拡大	拡大→安定	縮小
設置規制	緩やか	強い	強い	緩やか
評価認証	なし	なし	なし	あり
社会経済基盤	工業社会	工業社会	過渡期	知識社会

(年代は大局的見地からのもので、個別の重要政策の実施年とは必ずしも一致しない。) (山本眞一作成)

図表2 大学・短大進学傾向（最近10年間）（学校基本調査報告書）

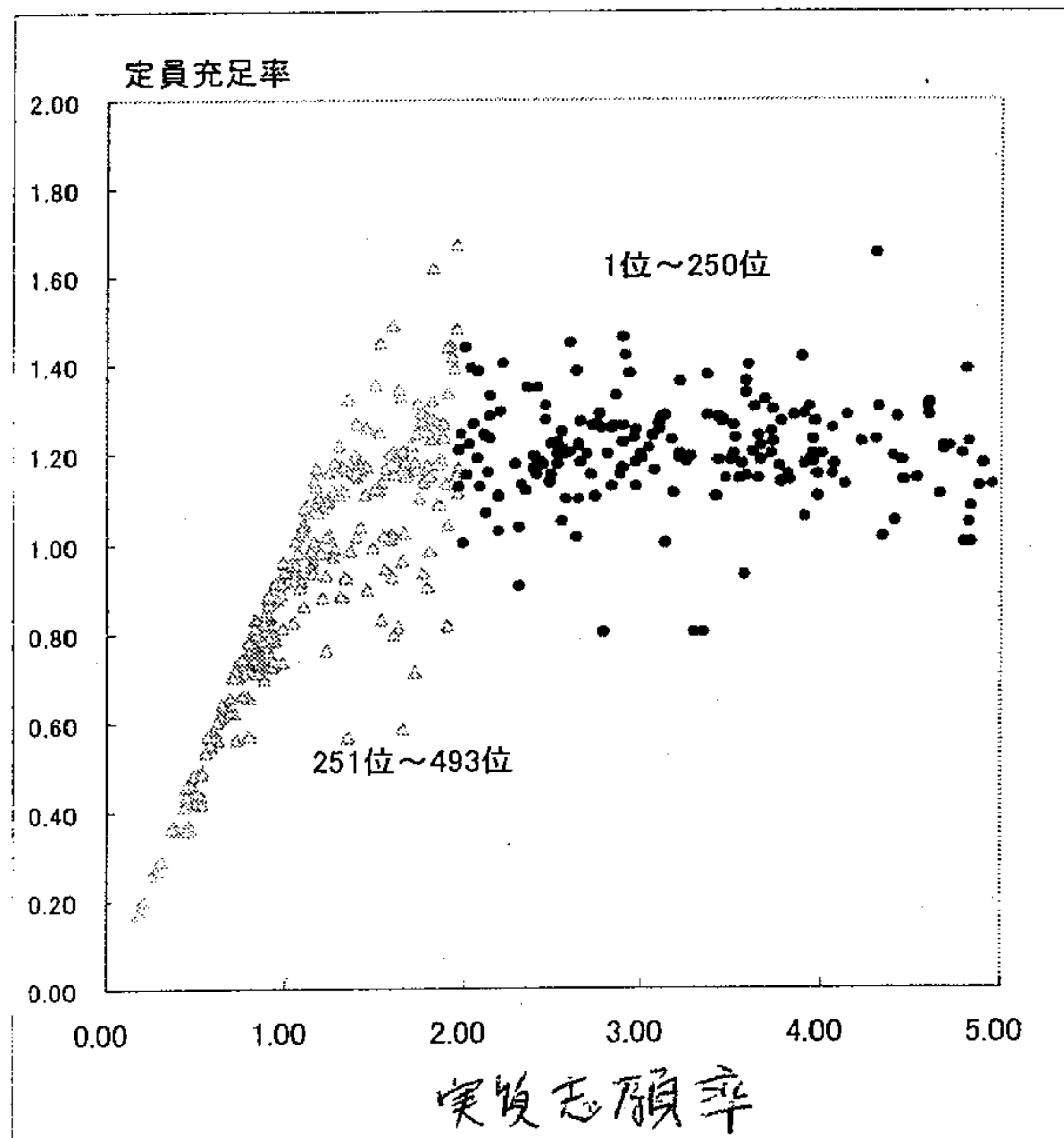


図表3 大学生（短大・大学院含む）の分野別在学者の割合（千分比・2000年5月）

		人文	社会	理学	工学	保健	教育	その他
学部	国公立	17	37	13	54	<u>19</u>	27	21
	私立	<u>121</u>	292	17	102	<u>29</u>	19	<u>58</u>
修士	国公立	<u>2</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>14</u>	<u>1</u>	<u>3</u>	<u>5</u>
	私立	<u>2</u>	<u>5</u>	1	<u>6</u>	<u>1</u>	<u>0</u>	<u>2</u>
博士	国公立	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>5</u>	<u>0</u>	<u>3</u>
	私立	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>2</u>	<u>0</u>	<u>0</u>
短大	国公立	1	1	0	0	5	0	2
	私立	<u>20</u>	<u>13</u>	0	4	5	<u>20</u>	<u>34</u>

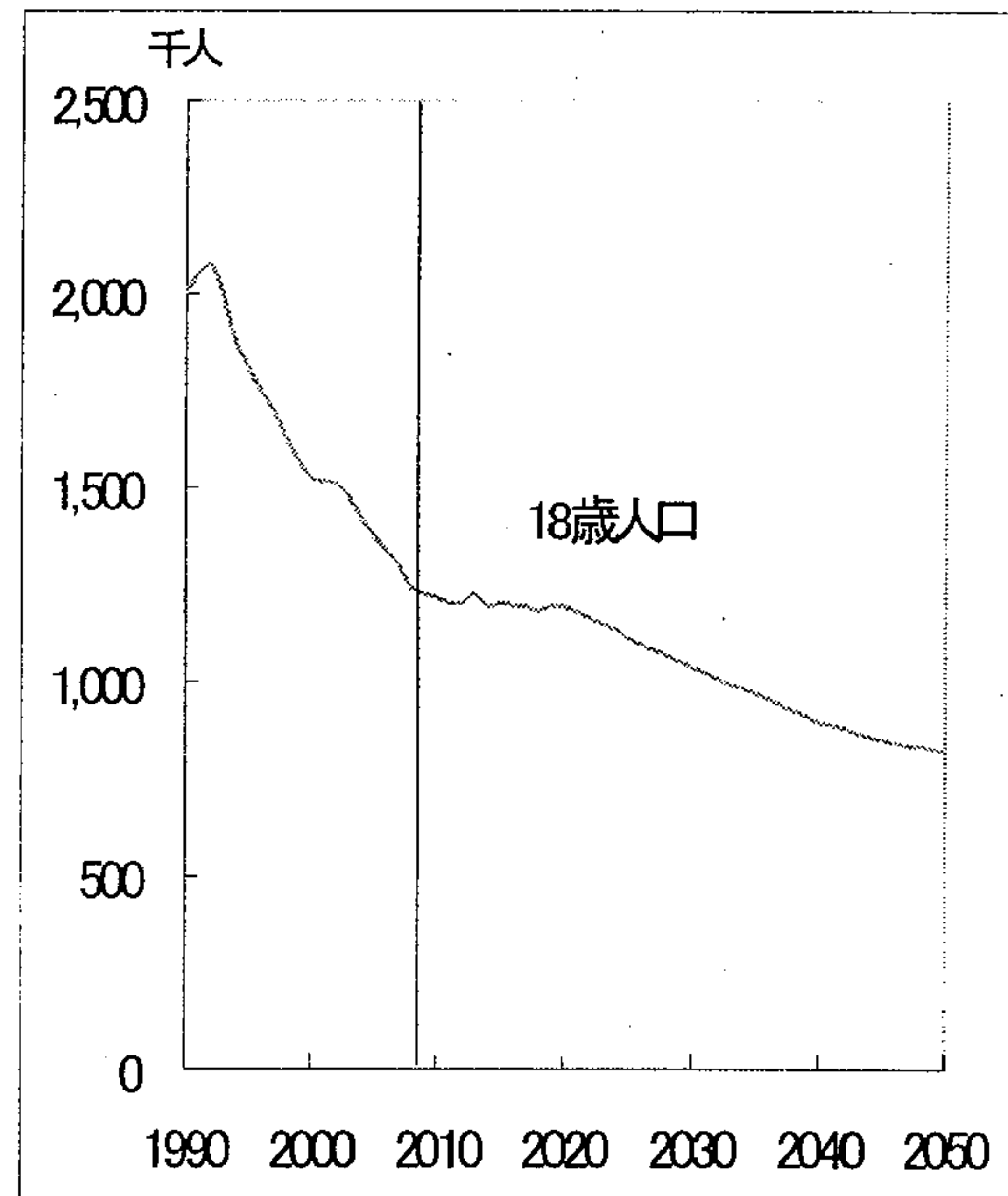
(注) 数値のうち、太字下線は過去5年間に10パーセント以上増加したもの。
イタリックは、過去5年間に10パーセント以上減少したもの。

図表4 私立大学入試志願状況（2001年度）



雑誌「選択」2002年6月号データによる

図表5 18歳人口の将来推計



人口問題研究所公表データ（2002年）による